

復活節第五主日

ヨハネ 13・31-33a, 34-35

2013. 4. 28

オリビエ・シェガレ
(パリミッション会司祭)
高円寺教会 9:30 ミサ

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」。この言葉は、この世から離れようとするイエスの最後の言葉だが、愛に一生をかけたイエスのメッセージの要約とも言えます。メッセージだけではなく、「しなさい」と掟でもある。一体イエスが私たちに呼びかけているこの愛とは何でしょうか。知りたい。だが答えるのは難しい。どの愛でも、定義がなく、理屈を言っても、体験しなければ、何も言えないからです。

皆さんの一人一人に愛は何ですかと聞いてみたら、おそらくそれぞれの置かれた状況や人生経験によって答えが違ってくるでしょう。親にとって愛することはまず子供を大切にすること、子供にとっては親に信頼を置くこと、友達にとっては互いに助け合うことと、恋人にとっては相手を信じることではないでしょうか。愛が場合によって、優しさであり、思いやりであり、気遣いであり、寄り添うことである。また時には愛は与えること、時には受け入れることである。

では「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と言うイエスは、どのような愛の経験をなされ、どういう風に愛について考え、どのような愛を私たちに呼びかけているのでしょうか。

イエスは、私たちと一緒に、母に可愛がられ、親の愛、近所の人々の愛、仲間を愛をいっぱい受けて育ったが、彼がどれよりも一番感じた愛は父なる神の愛ではなかったかと思われまます。神は愛だと悟っていたからです。その愛は宇宙万物を包み込み、皆の心に流れ、皆の命を生かし、皆を受け入れる広い深い川のような愛。心のすみずみにまで行き渡るこの愛を皆が感じ、共有できた時に、より豊、より確かなものとなる。互いに愛し合うことによって神の愛は一層私たちに伝わってくる。この愛は人間の努力である以前に、神によって皆を通して与えられる無償の賜物とわかります。これはイエスの愛についての確信ではなかったのでしょうか。

そして「私があなたがたを愛したように愛し合いなさい」と。私たちはイエスの生き方に倣って愛を学ぶことができるということ。イエスの示された具体的な愛は福音であり、福音書の各ページで触れることができます。

一人一人の名前を呼び、一人一人を大切にすることをイエスの愛、障がいを持った人々に深い思いやりを示した愛、差別を受けた人々の食卓につき、共に食べたイエスの愛、罪深い女をゆるし、励まし、共同体に復帰させたイエスの愛、十字架の上に人類の救いの為にご自分の命を捧げたイエスの愛など、様々な形で愛を示してくれました。

このイエスの愛は、愛情だけではなく、優しさだけではない。弟子たちの成長を望む愛の厳しさでもあったし、ファリサイ派の人々の偽善を非難し、妥協しない愛の勇気でもあります。イエスの愛は甘えることではない。イエスの愛は義のために闘う愛でもあり、平和のために全力を尽くす愛でもある。イエスの愛は身内にとどまる愛ではなく、たまたま出会った知らない人への開かれた愛。社会の中にいる孤独な人、寂しい思いをする人、皆から見捨てられた人を優先するような愛です。この愛はイエスご自身の好む言葉で言えば、仕える愛です。「わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である」「あなたがたの中で上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。」明治初期頃、司祭館に閉じこもらず、見捨てられたハンセン病の患者、あるいは戦後結核病にかかっていた患者と一緒に住むのを選んだ宣教師たち、この前の聖木曜日にローマ刑務所にいる囚人の足を洗ったフランシスコ教皇、彼らの行動は大きな反響を呼び起こしたが、ホームレスの人々に仕えている司祭や信徒、毎日家族のために仕える日本のお父さんとお母さん、震災地で仮設住宅の人々に仕えるボランティアなど、多くの人々はイエスの愛したように仕える生き方を選び、愛を証ししています。私たちも、一人一人の置かれている状況の中、このような愛を生き、示すことに招かれています。

「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合なさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる」とイエスが言い続けます。

教会は、立派な建物、立派な典礼、立派な活動があっても、愛がなければ、イエスの弟子の集まりであることを認められなくなり、不用な存在となる。最近の教会は愛よりも管理が重んじられているようになったと教皇様の嘆きを聞き、耳が痛くなります。管理は秩序が保たれて、安心するので楽な方法です。ある教会は、波風を立てるのは皆が怖いので、互いの心を開かない、ニコニコして自分を隠している。当たり障りのない話題を選んで衝突を避ける。しかし陰で人を非難したり、人を傷つけるような噂を流したりする。これはイエスの示した愛の道ではありません。こういうような教会は、社会の中で神の愛のしるしになることは無理です。

主よ、どうか私たちがあなたの示した愛から学び、その愛を生き、示し、私たちの教会はあなたの弟子の集まりであることを皆がわかるように、私たちを導いて下さい。